

Android アプリを作るための環境設定

「2014 年 3 月時点での最新バージョン」

2014 年 4 月時点での最新バージョンは Android SDK,Android ADT,Eclipse などがすべてバンドルされています。ダウンロードされるバージョンは以下です。

- Android SDK

android-sdk_r22.3-windows

- Android 4.4(API 19)

- Eclipse

Eclipse 4.2 Juno(英語版)

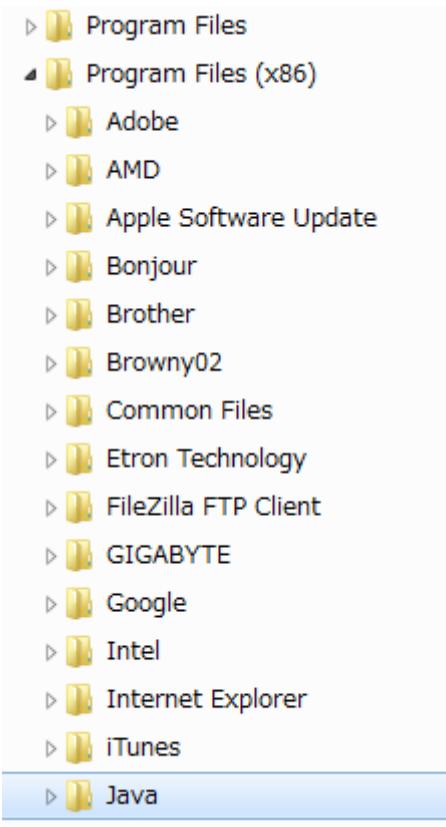
「注」 今回のバージョンでは以下の作業は不要となりました。

- Eclipse への ADT のインストール

- Android SDK Manager を起動してロードするパッケージを指定

0. Java のインストール状況の確認

各自のシステムの Java のインストール状況を確認してください。Java が 32-bit 版でインストールされていれば「Program Files(x86)」フォルダ、64-bit 版でインストールされていれば「Program Files」フォルダにそれぞれ「Java」フォルダが作成されています。



Java がインストールされていない場合は以下のサイトからダウンロードしてください。

<http://java.com/ja/download/>



1. Android SDK, Android ADT, Eclipse のダウンロード

Android SDK をダウンロードするには以下のサイトから行います（今までと同じサイトです）。

<http://developer.android.com/sdk/index.html>

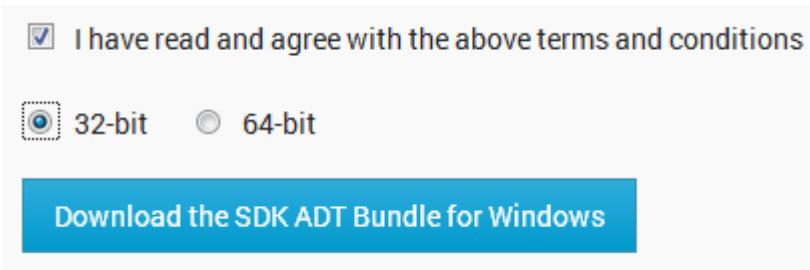
① 「Download the SDK ADT Bundle for Windows」をクリックします。



以下の内容が一括ダウンロードできます。

- Eclipse + ADT Plugin(Android Developer Tools プラグイン)
- Android SDK Tools
- Android Platform-tools
- 最新の Android プラットフォーム
- 最新の Android システムイメージ (エミュレータ用)

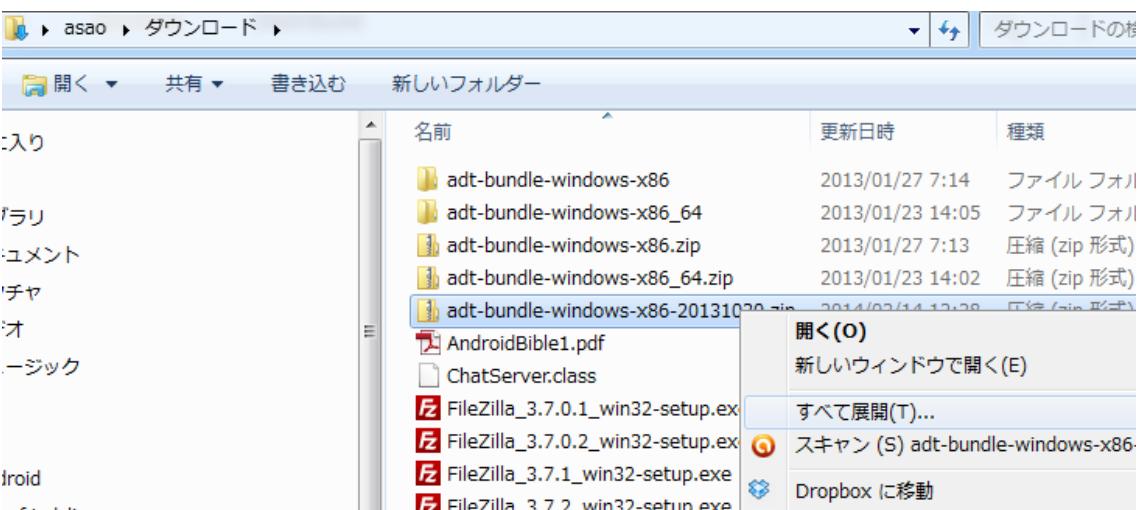
② 同意にチェックを入れ、自分の Windows システムに応じて 32-bit か 64-bit を選択します。



③「保存」を選択し、保存します。「ユーザー￥ユーザー名￥ダウンロード」フォルダに保存されます。



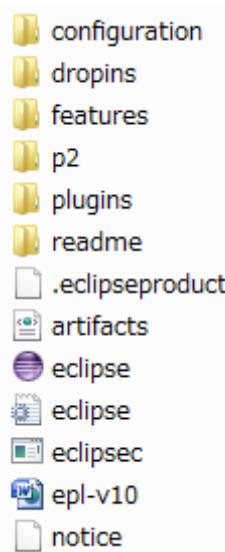
④ダウンロードされたフォルダ (adt-bundle-windows-x86-20131030) を右クリックし「すべて展開」を選択します。



⑤以下のようなフォルダが展開されます。



eclipse フォルダは以下のよう構成です。



2. Eclipse の起動

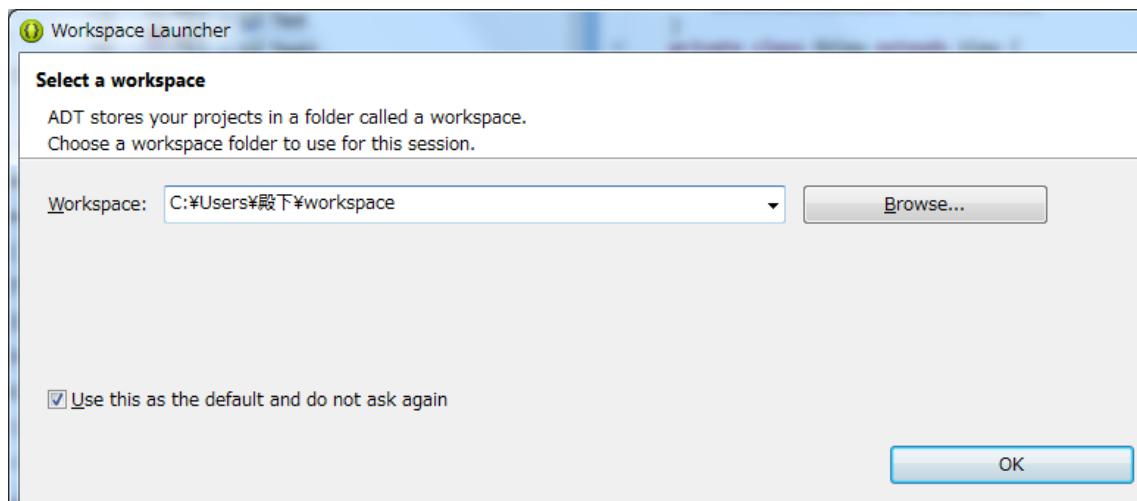
①eclipse フォルダの eclipse.exe を右クリックしてショートカットを作成し、デスクトップに移します。



②eclipse ショートカットをダブルクリックして Eclipse を起動します。

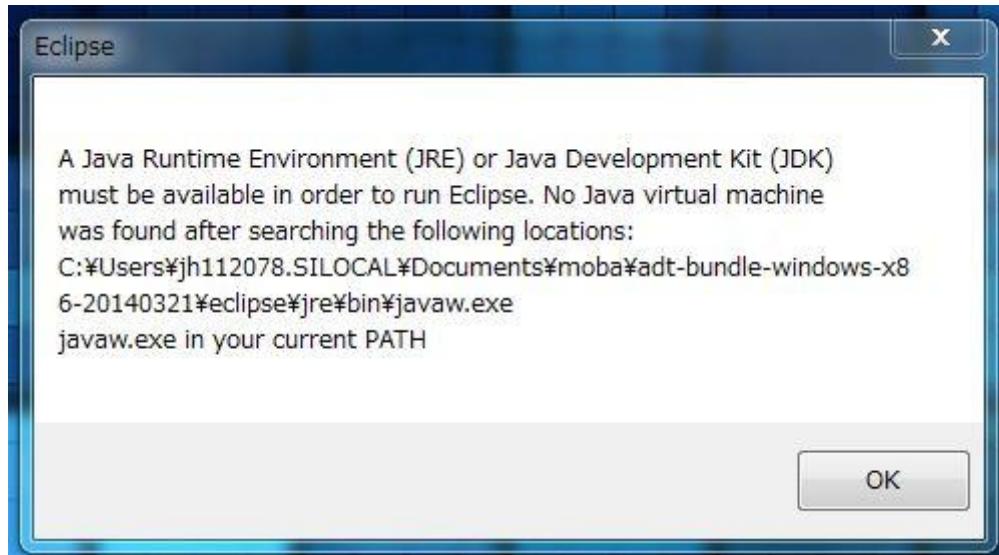


③Workspace 名を入力します。デフォルトで「c:\Users\ユーザー名\workspace」などとなっています。



「注」ワークスペースを切り替えて使いたい場合は「Use this as the default and do not ask again」のチェックを外しておきます。Eclipse の「File」 - 「Switch Workspace」でワークスペースを切り替えることもできます。

「注」Java がインストールされていなかったり、インストールした Eclipse と Java が 32-bit 版か 64-bit 版で不一致の場合以下のようないエラーとなります。

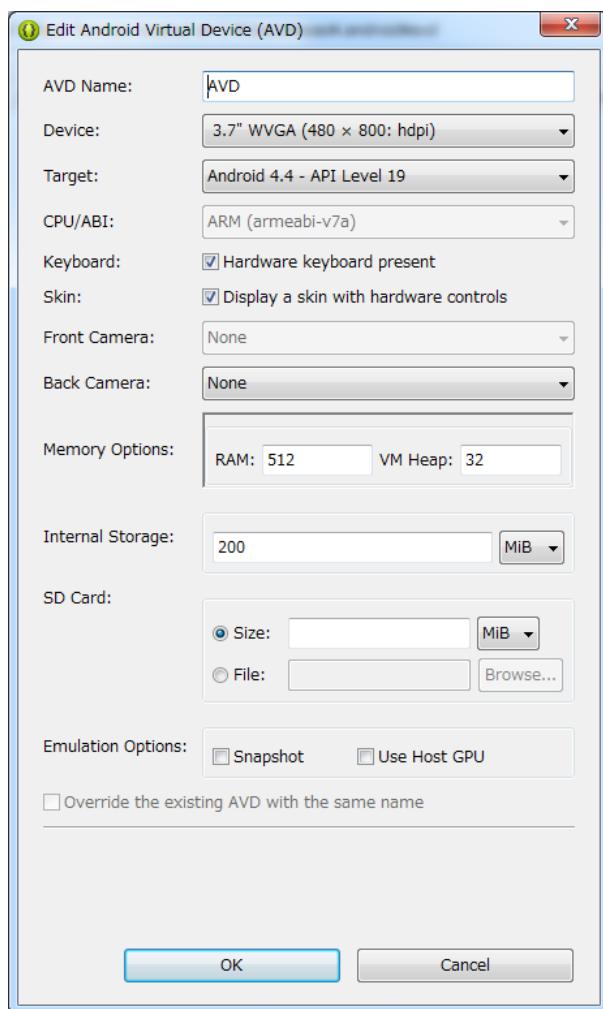


3. AVD の設定

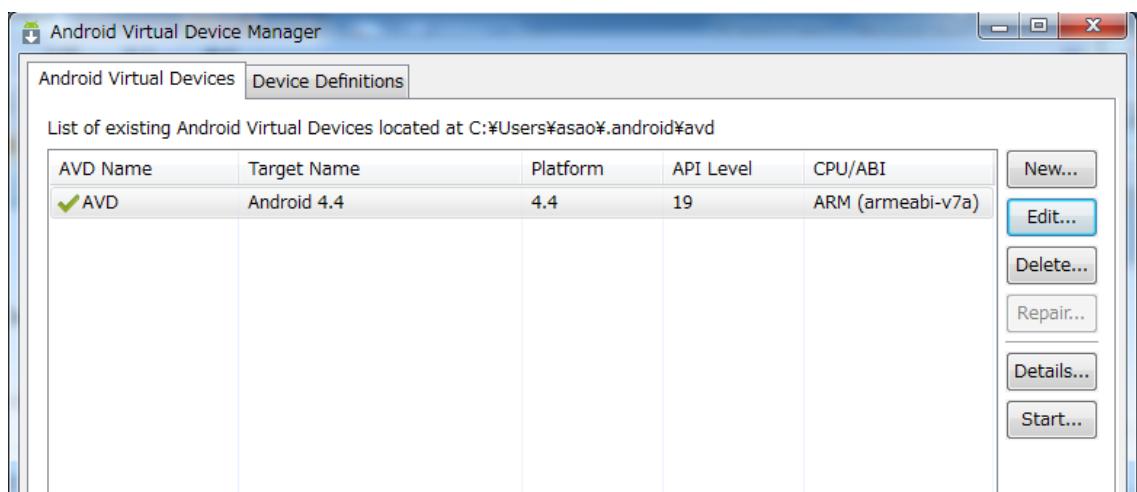
AVD (Android Virtual Device) はエミュレータ上で Android アプリを実行するための仮想デバイスです。

① 「Window」 - 「Android Virtual Device Manager」を選択し、「New」を選択します。以下の項目を入力します。

- ・AVD の名前は何でもよいですが、ここでは「AVD」とします。
- ・Device のサイズを指定します。ここでは 3.7 インチ WVGA(480×800:hdpi)を指定しました。
- ・ターゲットには希望する Android バージョンを指定します。



②以下のように AVD が作成されます。



4. Android SDK Manager によるインストールパッケージの確認

確認するだけで、インストール作業は行いません。標準で以下のパッケージがインストールされています。

- Android SDK Tools Rev. 22.3
- Android SDK Platform-tools Rev. 19
- Android SDK Build-tools Rev. 19
- SDK platform API 19 Rev 1
- ARM EABI v7a System Image API 19 Rev. 1
- Android Support Repository Rev. 19
- Google USB Driver Rev. 9

「注」Android SDK Tools を rev22.6 にアップデートするとソースプログラムが作成できないなどの不具合が発生します（2014/3/15 現在）。

